

古山地御殿跡

古山地御殿は、16 世紀後半、松本城の初代城主である石川数正（1592 年没）の私邸として建てられたとされている。建物の名前は、数正が "箇山寺" と名乗っていたことにちなんでいる。古山地御殿の跡地は、現在、旧博物館前広場になっている。

古山地御殿は、面積が約 587 平方メートルで、本丸御殿の 4 分の 1、部屋数も 30 室と小規模なものであった。1712 年頃の絵図をもとに、建物の中央に坪庭が設けられている。南側に座敷、北側に台所などの設備があった。風呂や茶室、タカの飼育室などもあり、古山地御殿は城主のプライベートな憩いの場として作られたことがわかる。

本丸御殿は 1727 年に焼失し、古山地御殿は当時の城主戸田光慈（1716-17357）によって改修・増築された。

若宮八幡神社旧社地

若宮八幡神社は、二の丸にあった。小笠原家の家臣である島立貞永（1517 年没）を祀るために、16 世紀初頭に創建されたのが始まりとされている。島立は、松本城の前身である深志城を築城したと伝えられている。

現在、城のすぐ北側にある松本神社の境内に若宮八幡神社がある。